平成24年7月8日　旭川市
第121回北海道精神神経学会

当院における再燃を繰り返す症例に対するメンテナンスECTの検討

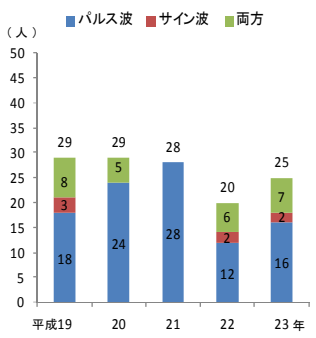
五稜会病院
山口　択　・　相方謙一郎　・　中島公博
立花　蘭・境さやか・富永英俊・千丈雅徳

当院でのECTの変遷

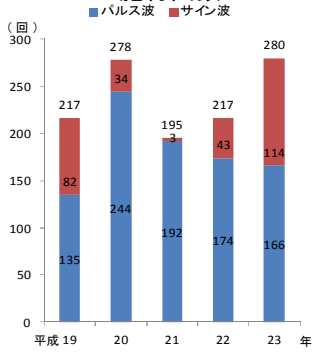
- 平成12年10月、ECTの施行を開始。
- 平成15年6月を最後に有けいれんECTを終了。
- 平成19年4月、サイマトロン(パルス波)を導入。
  ・・・従来の木箱（サイン波）は第二選択に。
- 平成19年6月、ECTクリニカルパスを導入。
  ・・・術前から術後までの評価・記録を一元管理。
- 平成23年11月、症例数増加に対応するため処置室を整備。1日3例まで施行可能に。

ECT種類別の年次推移

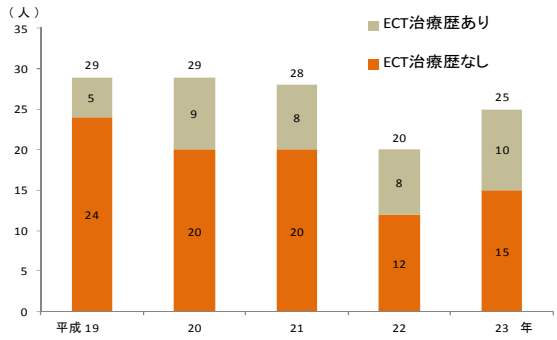
<患者数>



<施行回数>



ECT治療歴の有無による患者数の年次推移



この2年間のECT施行症例概要

- 期間：平成22年4月～平成24年3月
- 患者数：39名(男性13名、女性26名)
- 年齢：21～70歳、平均：47.3歳
- 診断：統合失調症圏(F2) 32名、
  気分障害圏(F3) 5名、その他 2名
- 状態：幻覚妄想状態20名、躁状態4名、
  緊張・昏迷状態13名、抑うつ状態2名
- 1～2クール施行（1クール 5回）。
- 重い合併症や副作用を認めず。

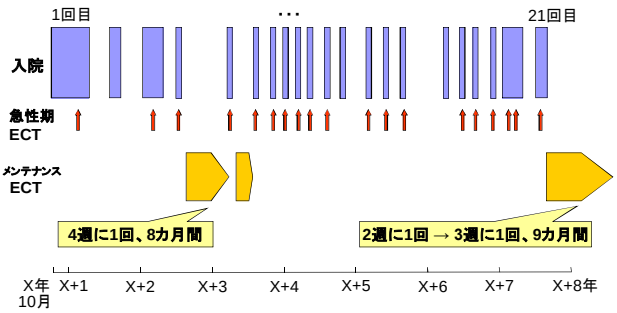
この2年間のECT再施行症例

- 39名のうちECT治療歴がない患者27名、過去にECT治療歴がある患者12名。
- 11名はこの2年間で重複してECTを施行。
- さらに、そのうち2名は寛解期が短いためにECTが多重回に及ぶ。
- 再燃予防を目的としてメンテナンスECTを導入することとした。

症例1

- 65歳、女性、統合失調感情障害
- 当院初診後、躁状態から幻覚妄想状態となる。
  その後は緊張病状態を繰り返す。
- 過去に4週に1回のメンテナンスECTを行ったが、8カ月で再燃し入院。その後も再燃のたびに入院を繰り返し、多くは薬剤抵抗性でECTが著効。
- 再入院までの期間は数カ月であり、2週に1回のメンテナンスECTを導入した。
- 2週に1回から3週に1回に間隔を延長。
  維持期間が過去最長の9ヶ月となっている。

症例1　経過



症例2

- 58歳、男性、統合失調症
- 30年以上も長期入院しており、著しい幻覚妄想・緊張病状態にて7年前にECT施行。
- その後も、症状再燃時にECTを何度か施行したが、ECT後2カ月で再燃するようになる。
- 再燃までの期間が1カ月程度となったため、4週間隔で1クール（5回）のメンテナンスECTを導入。
- 5カ月が経過。施行後4週目には妄想が出現することもあるが、以前のような緊張病状態は認めない。

考察

- 1クールの施行回数および間隔については、2つの方法を採用。
  A：2週に1回から開始し、徐々に間隔を延長。
  B：4週間隔で複数回（2-5回）施行する。
- ECT終了後1年以内の再燃率が高いと報告されていることから、1年間の継続が望ましい。
- 寛解期間が半年未満、入院が必要な再燃を3回以上繰り返している患者が適応。
- ECTの長期化により認知機能などの影響が懸念される。

まとめ

- 当院におけるこの2年間のECT施行症例の概要と、再燃を繰り返す症例に対してメンテナンスECTを導入した経緯を報告した。
- メンテナンスECTは、薬剤抵抗性で再燃を繰り返す症例に対して有効であると考える。
- 施行方法、適応、長期的影響などについて今後も検討が必要であり、指針となるガイドラインの作成が望まれる。